

内視鏡的粘膜下層剥離術 (Endoscopic Submucosal Dissection)

を受けられる患者様へ

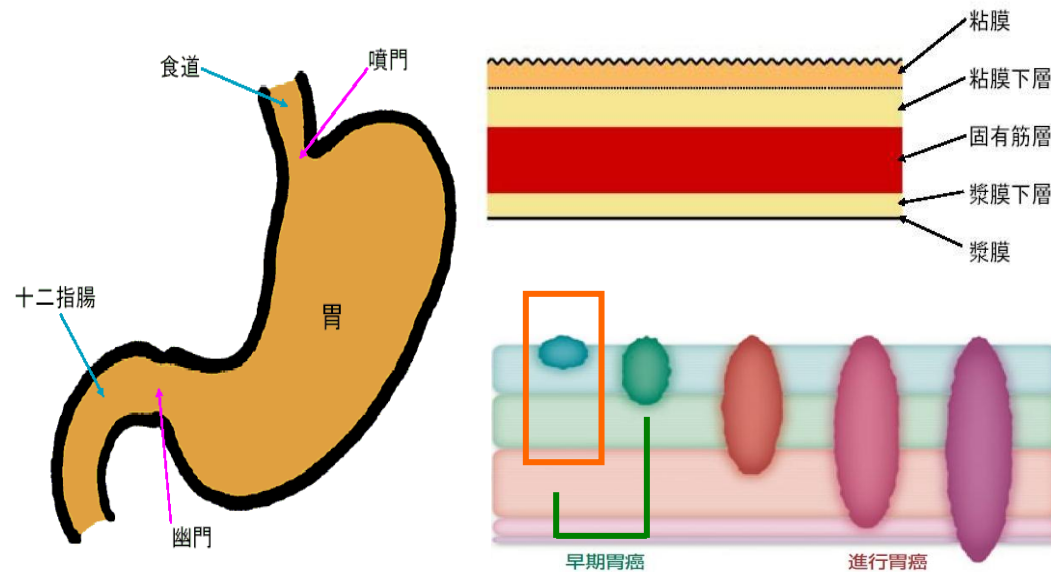


富山大学附属病院 第3内科

第2版

内視鏡的粘膜下層剥離術を受けられる患者さまへ

1、早期胃癌とは？



胃の壁は左図のように5層構造からなっています。

胃癌は一番上の粘膜から発生しながら成長し、徐々に深く進展していきます。粘膜・粘膜可能までの癌の浸潤であれば、「早期胃癌」といいます。

内視鏡的に治療できるのは「粘膜までの癌」です。

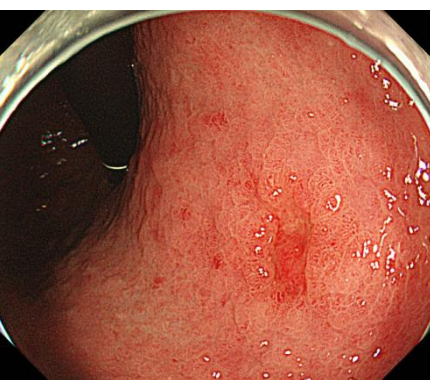
2、内視鏡的粘膜下層剥離術の適応

組織型		分化型		未分化型	
胃癌の大きさ	2cm以下	○	○	△	×
	2～3cm	○	○	×	×
	3cm以上	○	×	×	×
潰瘍形成		なし	あり	なし	あり

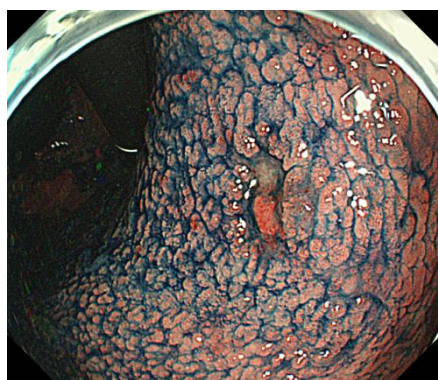
○ 2001年胃癌治療ガイドライン適応病変
○ ガイドライン適応拡大病変

ガイドライン適応病変は、その当時の技術により一括に切除できるものが適応となっていますが、近年の内視鏡治療の進歩によって、大きなものまで一括で切除できるようになりました。しかし、大きなものや潰瘍形成のあるものを切除すると、ある確率でリンパ節転移の可能性があります。最近の研究で報告されているガイドライン適応拡大病変については、切除成功率とリンパ節転移のない有効な治療であるとの研究成果も発表されていますが、あくまでも「ガイドラインの適応範囲外」であることをご了承ください。

3、内視鏡的粘膜下層剥離術の方法

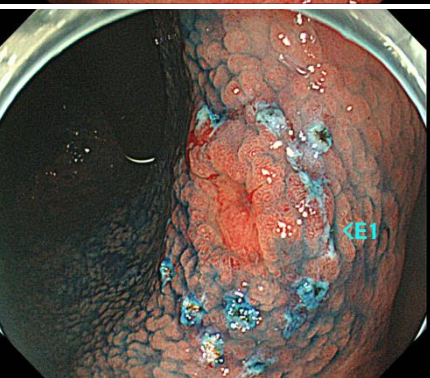


手術を始める前に
内視鏡で病変の
位置をしっかりと
確認します。

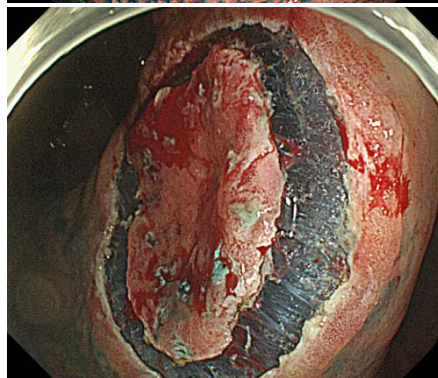


青い色素を散布し
さらに病変を見え
易くします。

中央やや右の赤い
部分が「癌」です。



内視鏡で確認できた
胃癌の範囲に対し
電気メスでマークして
いきます(マーキング)



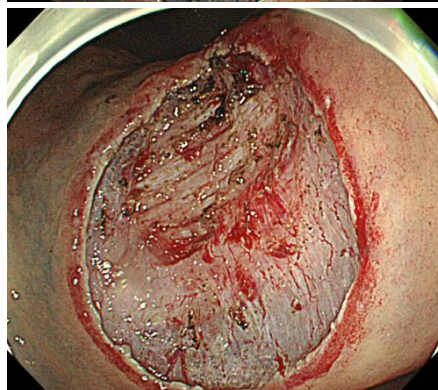
粘膜の下に、青色に
着色した液体を注入し
粘膜を浮かせます。

電気メスでマークした
部分の外側で、粘膜
を全周切ります。



粘膜の下(粘膜下層)
を電気メスを使って
はがしていきます。

血管を見つけたら
出血ないように
適宜止血します。

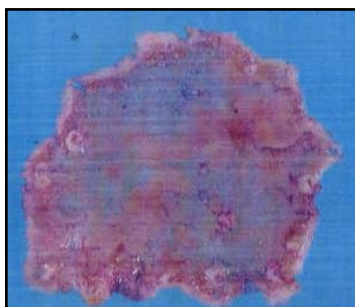


粘膜下層の剥離が
完了しました。

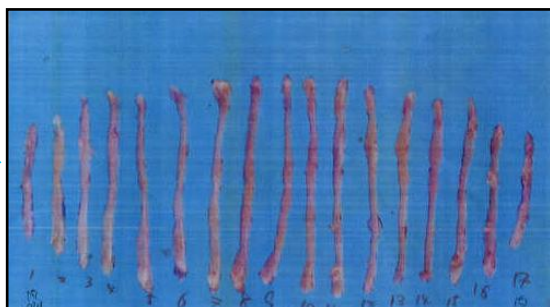
剥離後は図のように
大きな人工潰瘍が
形成されます。

4、切除した癌の評価(病理検査)

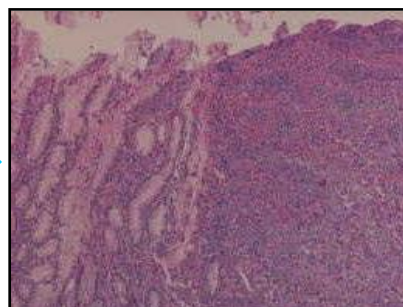
切除した癌組織は、病理検査に提出し、内視鏡治療の治療効果を検査してもらいます。
治療効果を判断するには、「目的とした範囲がとりきれているか?」「癌の深さは?」と、
癌細胞が「血管やリンパ管の中に入り込んでいないか?」の3つについて調べます。



内視鏡的に切除した
胃粘膜です。全例で
治療効果をみます。



粘膜を図のように細く切り、1本1本
を顕微鏡で見るためのプレパレート
を作成し、検査していきます。



顕微鏡検査で、胃癌の
組織型や、その範囲、
血管やリンパ管への
進入について調べます。

5、内視鏡的粘膜下層剥離術の偶発症

〔主な偶発症〕

- ① **消化管穿孔** ; 絶食・抗生物質の投与を行います。入院期間の延長もあります。
- ② **消化管出血** ; 内視鏡的止血術を行ないます。輸血が必要な場合もあります。

※ 内科的処置により改善が見込めない場合には、手術が必要になる場合もあります

内視鏡を使って、粘膜に直接電気メスで傷をつけるため、危険性の高い手術です。低い確率ですが、偶発症を引き起こすことがあります。主なものは切除した部分からの「出血」と「穿孔(穴が開くこと)」です。出血に対しては、内視鏡的な止血が十分可能ですが、まれに出血が多くなった場合に輸血が必要なこともあります。穿孔については、多くの場合絶食や抗生物質の投与で内科的な治療で改善することが多いですが、状況に応じて(ひどい腹膜炎や出血が止まらない)は手術が必要になることもあります。

6、術後の注意点

内視鏡的に粘膜を切除した部分は大きな人工潰瘍ができるため、治療後、抗潰瘍薬を服用していただいたり、いくつかの注意点があります。 2週間は以下のことに注意が必要です。

- 消化の良い食事をしていただき、刺激物(特に香辛料やアルコール)の摂取は避けてください。
- 入浴はできますが、熱い風呂や長風呂を避けてください。
- 汗をかくような運動(ジョギングやゴルフ)、お腹に力が掛かるような仕事は避けてください。

★医師より説明させていただいた内容について、十分にご理解いただけましたら、承諾書に御署名のうえ、入院日に持参し内科外来でお渡してください。

★治療当日は電気メスを使用します。義歯や貴金属など、身に着けているものは治療当日外していただきます。保管用の容器などご持参ください。

何かご不明な点がございましたら、遠慮なくご質問ください。 (説明医署名)